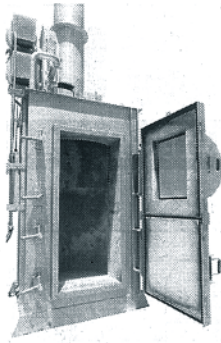
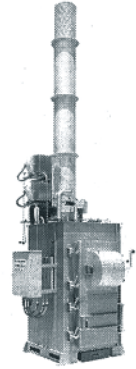


万能用焼却炉2モデルが発売

DAITO 木・紙くずを安定燃焼



SPZモデルの全面開放扉



万能用焼却炉「SPZモデル」

小型焼却炉の製造・販売を手掛けるDAITO(愛知県瀬戸市、井上滋樹社長、☎0561・21・3111)はこのほど、万能用焼却炉の「SPZモデル」と「SPⅡモデル」を発売した。今年3月発表の同モデルをベースに、木・紙などを安定燃焼できる万能用タイプとして機能向上させたもの。初年度は各50台の販売を目指す。

両新モデルは、従来製品から▽燃焼効率▽耐久性▽安全性▽使いやすさ—の向上を図るため、基本・構造設計から見直し、さらなる高温燃焼を実現した。具体的には、鋼板や耐火材壁を厚くするなどして耐久性を高め、新型投入扉を採用して本体との隙間から出る未燃焼ガスを大幅にカット。新たに設計したWカット集じん室により、消煙と集じん能力も向上したという。特に「SPZモデル」は全面開放扉となっており、大きなごみも楽に投入でき、作業効率を高められる。また、構造は各種法規制に適合。二部地域を除き、行政への届け出や許可の必要はなく、すぐに設置できる。万が一行政から指導があった場合は、当社が責任を負う構造基準適合保証を付けている」とする。さらに、中小企業経営強化税制の適用も可能だ。

SPZモデルのラインアップは、焼却能力が1時間当たり39キログラム(一般雑芥の発熱量で算出、以下同)49キログラム

の2タイプ。このうち39キログラムタイプの外寸は高さ2740×幅1570×奥行1900ミリ、標準価格は298万円(税抜き)となっている。一方のSPⅡモデルもSPZモデルと同様の焼却能力で2タイプ。39キログラムタイプの標準価格は278万円(同)だ。